

2013.5.4

♡ 生誕100年 ♡

日本で最も愛された名指揮者 ジャン・フルネ

プログラム

今年フランスの生んだ巨匠指揮者、ジャン・フルネの生誕100年に当たります。そこで今回はフルネが我が国で演奏した名曲の数々を、選りすぐりの名演でお聴きいただくことにしました。

ジャン・フルネは1913年、フランスのルーアンに生まれ、2005年に引退、2008年、95歳で亡くなりました。日本には1958年、ドビュッシーの歌劇「ペレアスとメリザンド」の日本初演のために初来日、1963年以降引退する2005年まで、ほぼ毎年日本を訪れ、N響、東京都響、日本フィル、群馬響、札幌響、大阪フィル、関西フィル等数多くのオーケストラを指揮、文字通り、日本で最も愛された名指揮者と言って良いでしょう。フルネの指揮は60～70年代から、フランス人らしい、洗練された優雅で均整のとれた音作りをする指揮者として評価されてきましたが、90年以降そんな言葉では入り切らない高い音楽性を我々聴衆の前で披露して行きました。それはフランス的なフランス音楽でもなく、フランス的なドイツ音楽でもない、そこにある音楽の神髄にせまる純粋な音だけを追求していたように思います。格調高い響き、ゆったりと呼吸する懐の深い響き、そして力感溢れるスケールの大きな響き、どれを聴いても、そこにはフルネ・サウンドがありました。これほどの指揮者を一番多く聴くことが出来た国が、我が日本だったのですから、我々は本当に幸せでした。今年生誕100年と同時に没後5年でもあります。じっくりとフルネの棒に酔いしれてください。

ジョルジュ・ビゼー (1838～1875):

“アルルの女” 第2組曲～

メヌエット／ファランドール

ジャン・フルネ指揮日本フィルハーモニー交響楽団
(1999.5.23 サントリーホールでのLive)

モーリス・ラヴェル (1875～1937):

ボレロ

ジャン・フルネ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
(2003.11.29 サントリーホールでのLive)

カミーユ・サン・サーンス (1835～1921):

交響曲第3番ハ短調 “オルガン付” op.78

ジャン・フルネ指揮NHK交響楽団
(1993.2.8 サントリーホールでのLive)



*** 休憩 ***

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756～1791):

クラリネット協奏曲イ長調K.622～抜粋

アルフレード・プリンツ (クラリネット)
ジャン・フルネ指揮NHK交響楽団
(1974.10.25 NHKホールでのLive)

ポール・デュカス (1865～1935):

交響詩 “魔法使いの弟子”

ジャン・フルネ指揮NHK交響楽団
(1993.2.8 サントリーホールでのLive)

ヨハネス・ブラームス (1833～1897):

交響曲第2番ニ長調op.73 ～抜粋

ジャン・フルネ指揮東京都交響楽団
(2005.12.21 東京文化会館大ホールでのLive ～引退記念ラスト・コンサート～)